

「防災スペシャリスト養成」有明の丘研修 令和6年度 第1期

「指揮統制」コース（上級管理）

【各講義の内容と学習目標】

オンデマンド講義：R6年9月17日（火）～10月20日（日）
対面演習：R6年10月10日（木）

形式	単元No.	単元名	単元の概要	講義No.	時間	動画時間		講師	学習目標
オンライン講義	0	コース紹介		0	2分	2分		林 春男 (京都大学)	
	1	指揮統制総論 (世界標準に則した指揮統制)	災害対策本部組織を統制していくための理論と基本構造を学ぶ。	1-1	59分	1分	学習項目		・ 危機対応組織のリーダーが果たすべき責務について説明できる。 ・ 危機にあたって組織のリーダーが行う業務について説明できる。 ・ 効果的な危機対応を可能にする指揮統制の世界標準について説明できる。 ・ 危機対応の世界標準を支える4本柱について説明できる。
						13分			
						13分			
						14分			
				1-2	39分	13分			・ 災害対応でやるべきことについて説明できる。 ・ 効果的な災害対応を実現するために市町村が果たすべき役割について説明できる。 ・ Incident Command System (ICS) を基本とする組織編制・運営について説明できる。
						5分	ふりかえり		
	2	指揮統制の世界標準 (危機対応に必要となる役割(部門)と機能)	世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割を学ぶ。	2	39分	15分	世界標準に則した災害対応体制の構築		・ 災害発生後に基礎自治体が行うべき業務の全体像を把握できる ・ 世界標準に則した災害対応業務が5つの役割で構成されていることを理解できる ・ 市町村が中心になって活躍する災害対応業務6+1を理解できる ・ 平時の業務を世界標準に即して災害対応業務に変換することができる (ICS準拠)
						18分			
	3	指揮統制の現状	大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語る。	3	29分	1分	学習項目	秋富 慎司 (日本医師会 総合政策研究機構、東北大学 災害科学国際研究所)	・ Incident Command Systemの役割と機能について説明できる。 ・ 部門別における目的と責務について説明できる。 ・ PlanningのPとIncident Action Planについて説明できる。
						4分			
	4	日本社会に適した指揮統制のあり方 (危機対応組織を動かすための重要な視点と14の原則)	危機対応の世界標準に則して災害対策本部の統制のあり方を学ぶ。	4	59分	16分		松岡 隼人 (熊本県人吉市) ※林 春男 (解説)	・ 経験を基にした指揮統制の実態と考え方を説明できる。
						14分			
	5	リーダーシップのあり方	リーダーシップの考え方と指揮統制を行うための要求事項を学ぶ。	5	56分	4分	学習項目	熊丸 由布治 (ペアーズプランニング)	・ オールハザード対応について説明できる。 ・ 過去事例からの教訓について説明できる。 ・ 危機対応14の原則について説明できる。（前半） ・ 危機対応14の原則について説明できる。（後半）
						13分			
	6	参謀にとっての災害対策本部運営	危機対応組織の参謀がどのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学ぶ。	6	67分	15分	学習項目	林 春男 (京都大学)	・ 阪神・淡路大震災における応急対応から復興の現場で「その場を仕切れる人」について説明できる。 ・ リーダーシップ理論の変遷について説明できる。 ・ John Adairの行動中心型リーダーシップ理論について説明できる。 ・ 行動中心型リーダーシップ理論について説明できる。
						8分			
						13分			
						9分	ふりかえり		
						16分			
						16分		越野 修三 (元 岩手県防災危機管理監)	・ 災害対策本部の指揮とは何かについて説明できる。 ・ トップと参謀の役割について説明できる。 ・ トップの意思決定・指揮を補佐する参謀機能の強化について説明できる。 ・ 情報処理と状況判断について説明できる。
						14分			
						16分			

					4分	ふりかえり		
対 面 演 習	7	災害広報	地方公共団体の災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、メディアを通して被災者等にどう向き合い、どう語るのかを学ぶ。	62分	22分	行政の視点	高島 哲夫（元 防災科学技術研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時の行政機関による広報の内容・方法等を説明できる。 ・ 災害時の広報活動を適切に実施するための情報処理のポイントを説明できる。 ・ 記者会見の進行・運営における留意事項を説明できる。
					30分	災害時のメディア対応	木戸 崇之（エービーシー・リブラー）	
					10分	演習説明	辻岡 純（防災科学技術研究所）	
	8	災害広報（記者会見演習）		105分			高島 哲夫（元 防災科学技術研究所） 木戸 崇之（エービーシー・リブラー） 辻岡 純（防災科学技術研究所）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任担当期間内での活動の流れを検討する。 ・
	8	災害対策本部の活動のあり方（責任担当期間での活動の流れ）	災害対応は責任担当期間を単位として展開する。災害発生の時間的経過に応じて、責任担当期間は12時間、1日、1週間と変化する。ここでは責任担当期間内での活動の流れを検討する。	8	45分		林 春男（京都大学）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任担当期間内での活動の流れを検討する。 ・
	9	全体討論	防災力アップのため、指揮統制について学んだことを、受講者のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。	9	75分		林 春男（京都大学）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修受講の目的を再認識する。 ・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 ・ 研修を活かして次につなげることを認識する。